

磐城時報

編輯 石城郡平野町十四番地
印刷 石城郡平野町十四番地
電話 磐城時報社
廣告料 一月十元 三月三十元 半年六十元 一年一百元
日刊(日曜、祭日) 休刊

縣議選舉終る

最高点は野崎氏が 草野三郎氏最も危険 投票前日の各氏状態

縣議員選舉は二十五日行はれてゐる。政友井上茂作、田十數日百つて逐鹿場裡で悪戦子健吉、萩原義雄の三氏は第三苦闘した候補者當落の運命は今位以下で當選するもの、如く、や投票箱の中に秘められ石城郡民草野三郎氏が最も危険とさすに於ては二十六日午前八時から行はれてゐる、無産黨本候補者は平町、植田町、小川村の三ヶ所果して如何程の得票があるかはに於て投票の箱が開かれる一般から極めて興味を以て見らる。同日夜には當落の大體が判つてゐる。

演説會數

三百回を突破

日である二十四日の八候補者の勢力消長を見るに、民政野崎滿縣議員選舉に際し平警察署管藏氏が斷然優勢を示し恐らく最内で開催された候補者の政見發表高の當選者たる事疑ひなしと表演説會は百三十八回に達し植されてゐる、第二位は郡南の政田、四倉、兩警察署管内を合す友候補赤坂毅一氏らしく、同じると三百回以上に達してゐる、く郡南の民政黨石川徳壽氏は湯聽衆の最も多かつたのは無産黨本町から千五百票の得票があれ、松本候補者が内郷村内町小學校ば第三位で同町の得票が千票をの二千名、最も少かつたのは民下の場合危険状態に在ると言、政派石川候補の十六名であつた

平町の投票は

飯田氏が第一番

午前十時までに千三百八十名

縣議員選舉の日は愈々來た。の三つに區割されてゐる、投票けふ二十五日午前七時から各町の最先きは平町一目丁飯田近治村毎に一齊に行はれたが平町の氏(赤)で之に次ぎ鈴木勝彌(白)投票場は元平商業校武道場で混雑野野佐平(紫)が各入口の第一番雜を防ぐため入口が赤、白、紫投票者である、午前十時までの

逃げた山下某の妻 松戸町で捕はる 若い燕と夫婦氣取り

平町南町三十六番地富家山下庄一内縁の妻宮崎千代(三四)は二十一日午後二時頃庄一の貯金千六百圓を拂戻して逃走した事既報の如くであるが、平野を調査した處平野から松戸驛留置所として柳行李を差出した事が判つたので松戸町を捜索した處廿三歳若い燕と邂逅し夫婦氣取りりてゐる處を發見連れ戻された

泥酔者路上で亂暴 荒物商奇禍に遭ふ

二十四日午前一時頃平町五丁目地内で泥酔者が通行人に亂暴を働いてゐるのを同町警察員が發見し注意をした處ビール瓶の破片を持つて生意氣だど折衝通りかゝつた五丁目荒物商馬目男(三三)に喰つてかゝり右頬に全治三週間を要する重傷を負はせた右泥酔者は平町仲間町夏井川砂礫採取人太田佐吉(二六)と言ひ酒癖の悪い男である、平署で取調中である。

模範演習

磐城中等學校四年、五年二百名は二十五日石城郡平野村大字大室地内で模範演習を行つた。

日支衝突映畫

平館で上映 過般北太、奉天等に於ける日支衝突の際我が軍の守備隊第二十九聯隊の活躍實寫映畫を二十

四倉市場取引

四倉 藪市場二十四日取引は二百四貫最高三十圓四十錢、最低二十圓四十錢、平均二十八圓五十錢である。

木炭理事會

磐三郡 木炭同業組合では二十八日理事會を開くが、木炭需要期に入つたので生活増加を豫想し指導員並に検査員増加の件について協議する。

手数料詐欺

石城郡 内郷村鬼ヶ澤居住人周旋業吉田甫(五〇)は同村高坂郷地(一八)を去月前借二百圓で鐘紡に世話してやると稱して手数料十五圓を詐取した為ゆきの實父から二十三日平署に訴へられた

平商校運動會

平商 業學校では十月十五日午前八時から同校庭で秋期運動會を開催する。

平商業學校で 十月から夜學を開く 目下入學生募集中心

平商業學校では十月五日から例年の通り商業補習夜學校を開く事となり目下新入生を募集中心であるが、入學案内左の如くである。

- 一、目的 本校は商業に従事し或は從事せんとする者に要する知識技能を授けると同時に國民生活に必須なる教育を爲すを目的とする。
- 二、學科 學科科目は修身、公民、科、國語、算術、珠算、商事、要項、簿記、英語

外遊だより

第三信 ベルギー國オステンドにて
(十二) 海軍中佐 高木武雄(寄)

無味乾燥のもの我が邦では折紙の附いて居る体操なるものを面白くやることに特別の工夫が施されて居ます、そして各都市町村に体操組合があつて、大都市には其の組合の体操學校があります、体操の専門的指導者を養成するのや各組合から代表者を短期間講習に出すのや、色々の仕掛けになつて居ます、僕は柏林の体操學校を參觀に行つたとき、

十越したお神さまも若い娘さんに負けない口を大きく開いて高らかに唱ふのには感心しました、軍隊に於ける体操は之は素晴らしいものです、兵隊がこれでも之れも拳闘の選手の様な體格をして居ます、体操だけでこんな立派な體格になるのか知らず驚きます、我が國でも近年芽を出して來た體育醫學なるものが可成り屈みや肉體の状態まで厳格に検査して、發育状態を調べる一方體育を熱心にやつたために病的の起ることをない様に預防的の注意を拂つて居ます、病氣の死は獨逸の新聞で大きく傳へられました、日本婦人體

陽が指し込む家ですが、仕事から家へ歸つて夕陽を浴びること熱心な婦人連、窓際に腰掛を運んで其所で裸體で日光浴をやります、甚しいのは一層能率を増進しようと思ひ、兩脚を擧げるとお嬢さんもあり之には僕は太に當てられまし、いくら道幅が廣くとも僕等の眼は遠眼が利くので之は大に失禮、婦人のごときは話に上れる様ですが、獨逸は大戰で男が死んで、生き残つたものも廢兵院に居るものが多ので街頭に顯はれる年頃の人、伯林は婦人はかりの都の様に見えるのも此の爲です。(續)

